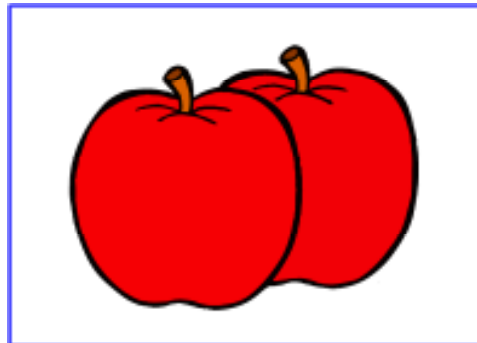


"Do you like apples?" 「リンゴは好きですか。」を6文に発展させた授業である。

1. フラッシュカードで単語の練習

複数形の果物を提示する。"apples, lemons, bananas, oranges, strawberries, tomatos"の6つの単語である。



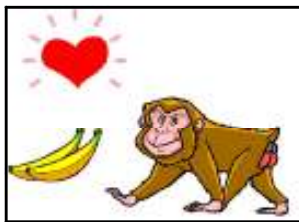
2. 対話文を提示する。

"Do you like bananas?"の状況を提示し、対話文の意味を理解させる。

まず"monkey"が画面に登場し、バナナが表示される。

"Do you like bananas? Yes, I do."とモデルトークを子どもたちに提示する。

次に"rabbit"とにんじんが現れる。"Do you like carrots? Yes, I do."と提示する。

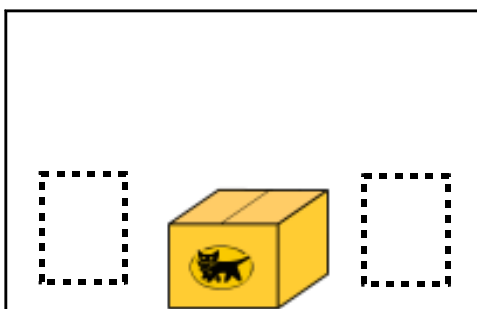


3. アクティビティで対話文を定着させる。

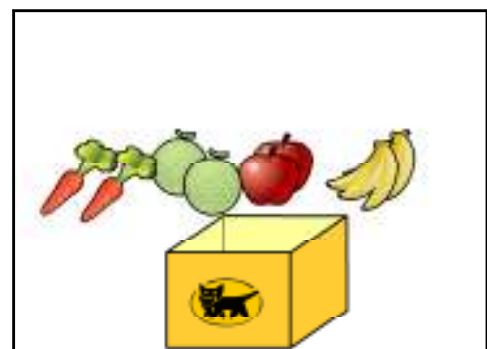
「○○は好きですか？」のシチュエーションコンテンツ2を立ち上げる。

宅配便で荷物が届き、二人で分けるというシチュエーションである。

点線で描かれているところに隠しボタンがある。このボタンをクリックすると、箱の中身が箱から飛び出してくる。



→



手本の児童一人と教師で、スマートボードの左右に立つ。"Do you like apples?"と児童に尋ねる。"Yes, I do."ならスマートボード上の apple を児童の近くにドラッグ

させる。役割を交代し、 "Do you like apples?"と尋ね返させる。 "Yes, I do."なら apple を教師の近くにドラッグする。 "No, I don't."と答えるのなら、 apple を箱の中にドラッグし、戻す。 "banana" "Melon"等も同じように対話する。互いに尋ねられるよう、それぞれの果物は二つずつ表示されている。

次に全員でアクティビティを行う。もし用意できるのなら箱を用意し、果物の模型を入れておく。児童二人に一箱が望ましい。 "Do you like apples?"と相手に尋ね、 "Yes, I do."なら模型を受け取り、 "No, I don't."なら模型を箱の中に戻す。

箱と模型を用意することが難しい場合、果物の英語カルタ数枚を封筒に入れたものを用意する。封筒を二人に一袋ずつ配布する。封筒から "apple"のカルタを取り出した場合、 "Do you like apples?"と相手に尋ねる。 "Yes, I do."と答えたならカードを受け取り、 "No, I don't."と答えたならカードを袋の中に戻す。なお、ゲームとアクティビティの違いは、勝ち負けがあるのがゲーム、ないのがアクティビティである。

4. 六文の対話文に発展させる。

「アクティビティのページ」を立ち上げる。

- ① "Do you like cookies?"
- ② "Yes, I do."
- ③ "Here you are."
- ④ "Thank you."
- ⑤ "How is it?"
- ⑥ "It's delicious."



コンテンツはクリックするたびに吹き出しが表示される。イラストをヒントに対話文を話すことができる。

6文の対話文を反復練習させた後、アクティビティを行う。クッキー、ケーキのイラストをプリントアウトしておき、2人1組で練習をさせる。